

カンニトフェルスタント

豊

子

是は少し大きい人のお伽話！獨乙の片田舎に一人の御百姓が  
ありました。この御百姓はどうも自分の境遇がつまらなくてたま  
りません。どうかして御金持になりたい、御金があったら定めし  
たのしい事だらうなど、しやう思っていました。とう／＼決  
心した末、和蘭のアムステルダムは大層御金まはりのよい所た  
と聞いていたので、何かうまいもうけ口でもあるだらうと、住な  
れた自分の村を出發致し、アムステルダムへやってみてしまし  
た。何しろ賑かな事と云たら、鎮守様の御祭より他に見た事の  
ない御百姓三が、急にこんな繁華な都へやってきましたのですから

見る物きく物皆事新らしく物珍らしく、思はず知らず或る立派な御邸の前迄やうて参りました。御百姓はこの御邸の大きくて立派なのにつくづく感心致し、

「ア、自分もせめて一時でもこないゝ住居にいて見たいなあと思ひました。それにしても誰がこんな贅澤な暮しをしているのだらうと折から通りかゝた和蘭人をつかまへて、

「この御邸はどなたの御住居ですか」と尋ねました。この和蘭人は合憎獨乙語を少しも知らなかつたもんで大層困つた末和蘭語で、「カンニトフェルスタント」あなたのおしやる意味が別りません」と云つてドンくいてしまいました「御百姓三は

「ハ、ア之れはカンニトフェルスタントと云ふ人の家だな」と合點

をしたので

「羨ましい事だカンニト氏は幸福な人だ」と思ひながら又プラくと歩てる中、波止場のそばに出ました。名にしをふ出船千艘入船千艘と云ふアムステルダム的事了から、それはくたくさんの御船の檣は林のように併でいます。御百姓はまた呆れかへつて頻りと見ていますと、一艘特別に大きな新らしい御船から、たくさんの人夫がセツセと荷物を陸上げしてました。御百姓は又

「偕てく羨ましい事だあんな大きな御船は一体誰が持っているのかしら」と思ひましたので人夫の一人に「この御船の持主はどなたで御座いますか」と丁寧にきゝましたすると人夫はうるさそうに、

「カンニトフェルスタント」と答へて行てしまいましたこの人夫もやはり獨乙語を知らなかつたのです。

御百姓は心中で

之もカンニト氏の持船であるかほんとうにあんな大きな家やこ

んな美事な御船を持っているカンニト氏には恐く不幸と云ふ物は

なからう」どうして自分はこのなに貧乏に生れたのたろう」とスゴ

く港口から山の手の方をさして参りました。すると向ふから

こんだは御葬式がやってきました。鐘の音が悲しくひびいて夕日

が殘光を淋しく白衣の人々の上に投ていしました。御百姓は何だ

か氣ざむしくなつたので丁寧に棺におじぎをし、偕行列の後

方にくつついてやつてきた一人の羽織袴のしさいらしく考へて

いた男に

「どなたの御ともらひですか」と小聲できゝました。この男は大層喫驚した様な風で一才立どまりましたが、唯カシニトフェルススタント、と云たきりで行すぎてしまいました。

この答をきいた御百姓は大層感じた様子でしたがやがて深くためいきをついて

「ア、あんな贅澤なくらしをしていたカシニトフェルススタント氏も死ねば鏝一文も身につけて持ていけはしない榮華は夢の様なものだ齷齪と他人の生血を吸ふ様にして御金をためた所で、あの世への御土産は小さな花束か一ツ。やっぱり住慣れた故郷で親からゆづりうけた御百姓が一番たのしい。さあ歸りましようく

と。獨言を云ひながら自分の村の方へテクくと歩をはこびま  
 したとさ  
 をわり

\* \* \* \* \*

「お母さんは何に？」

「夫れはねお魚の卵！其小さな一つ／＼の粒が皆お魚になるのですよ」

「そを？一つのお魚がこんなにたんと卵産んで大變ねー、幾つあるでせう。」

「花ちゃん、お利好でもね其勘定は出來ないはね大變でせう？」

(ひらめの産卵數七百万個、其他も二百万乃至三百万)

